



1998年03月03日

フォルクスワーゲンW12ロードスター ジュネーブモーターショーでデビュー

フォルクスワーゲン (VW) として初めての12気筒エンジンであるW12は、3月初めから開催されるジュネーブモーターショーで エクスクルーシブロードスターのスタディモデルに搭載され、ヨーロッパでデビューします。このオープンスポーツカーは、1997年秋に 東京モーターショーで展示されたコンセプトカー同様、イタルデザインとの密接な協力の結果 誕生したモデルです。

この12気筒エンジンは、2つのV6エンジンが72°の角度でコンパクトにW型に組み合わされたエンジンです。4本のチェーンドライブ オーバーヘッドカムシャフトにより、シリンダ当たり4つのバルブが制御されています。排気量は5.6 l、3,000rpmで最大トルク54.0 kgm、5,800rpmで420PSの最大出力を発生、油圧カムシャフトを無段階調整するエンジン制御システムによって、スムーズでパワフルなトルクカーブが得られます。

W12エンジンは、全長510mm、幅700mmと非常にコンパクトです。クランクケースはアルミニウム製で、シリンダライナはプラズマコーティングが施されています。また、バルブカバーとタイミングチェーンガードは 共にマグネシウムが採用されています。

このW12ロードスターはミッドシップにエンジンを搭載しています。12気筒エンジンはリヤホイール前方中央に据え付けられ、動力はリヤマウントされた連続6速ギアボックスによって伝達されます。

ジュネーブモーターショーで展示されているロードスター スタディモデルはイタルデザインによって改良され、フロントヒンジドアのオープンモノコック構造になっています。2シーターロードスターは 全長4.40 m、全幅1.92 m、全高1.00 m、そして重量は1,150 kgに抑えられています。19インチアルミホイールが装着され、フロントには255/40 ZR 19、リヤには285/35 ZR 19サイズのタイヤが使用されています。また、ブレーキは ベンチレーテッドディスクブレーキを採用しています。